

律令国家の形成

1 飛鳥の朝廷

東アジアの動向と ヤマト政権の発展

6世紀の朝鮮半島では、高句麗の圧迫を受けた百済や新羅が勢力を南下させ加耶の諸小国をあわせてため、加耶諸国は562年までにつぎつぎに百済・新羅の支配下にはいった。そして加耶諸国と結びつきのあったヤマト政権の半島での勢力は後退した。6世紀初めの政治を指導した大伴氏は、朝鮮半島への政策をめぐり勢力を失い①、6世紀中ごろには、物部氏と新興の蘇我氏とが対立するようになった②。蘇我氏は渡来人と結んで朝廷の財政権をにぎり③、政治機構の整備や仏教の受容を積極的に進めた。

589年に中国で隋が南北朝を統一し、高句麗などの周辺地域に進出しはじめると、東アジアは激動の時代をむかえた。国内では大臣蘇我馬子が

憲法十七条

一に曰く、和を以て貴しとなし、忤ふること無きを宗とせよ。

二に曰く、篤く三宝①を敬へ。

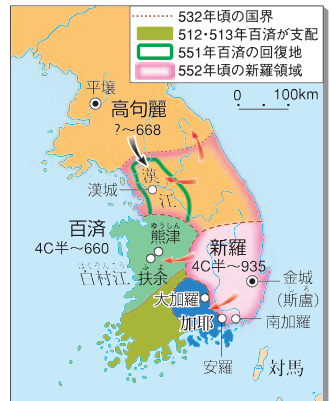
三に曰く、詔②を承りては必ず謹め。君をば則ち天とす、臣をば則ち地とす。

十二に曰く、国司・国造・百姓に斂めとる③ことなかれ。国に二の君なく、民に両の主なし。率土の兆民④、王を以て主とす。

十七に曰く、それ事は独り断むべからず。必ず衆と論ふべし。

（『日本書紀』、原漢文）

① 仏教。② 天皇の命令。③ 税を不当にとる。④ すべての人民。



- 6世紀初めに、加耶西部の地域に対する百済の支配権が確立したことが失政とされ、大伴金村は失脚したという。
- 仏教の受容に積極的な蘇我馬子と反対する物部守屋のあいだの戦いとなり、587年に守屋を滅ぼして蘇我氏の権勢が確立した。
- 斎蔵・内蔵・大蔵の三蔵を管理し、屯倉の経営にも関与したと伝えられる。

6世紀の朝鮮半島